

Hib(インフルエンザ菌b型)

☆不活化ワクチンです。

Hibワクチン(インフルエンザ菌b型ワクチン)

インフルエンザ菌 b 型による感染症(髄膜炎、敗血症、蜂巣炎、関節症、喉頭蓋炎、肺炎および髄膜炎など)を予防するワクチンです。

Hibとは?

Hib(インフルエンザ菌 b 型)は乳幼児の髄膜炎、敗血症、肺炎などの重篤な全身感染症の原因となっています。Hibによる髄膜炎の発症者は、年間約 400 人で、約 11% が死亡や後遺症を残すなど予後不良と推定されており、生後 4 か月から 1 歳までの乳児が過半数を占めています。

副反応

接種部位の発赤、はれ、しこりなどの局所反応があります。全身反応として、不機嫌、食欲不振、発熱などがみられます。副反応のほとんどは接種後 2 日後までに発現して、その後 3 日以内には消失しています。

小児用肺炎球菌

☆不活化ワクチンです。

小児用肺炎球菌(13 価肺炎球菌結合型ワクチン)

肺炎球菌による感染症(髄膜炎、敗血症、菌血症、肺炎など)を予防するワクチンです。

肺炎球菌とは?

肺炎球菌は、細菌による子どもの感染症の二大原因のひとつです。この菌は、子どもの多くが鼻の奥に保菌していて、ときに細菌性髄膜炎、菌血症、肺炎、副鼻腔炎、中耳炎といった病気を起こします。肺炎球菌による化膿性髄膜炎発症者は、年間約 150 人で、死亡や後遺症(水頭症、難聴、精神発達遅滞など)を残すなど約 21% が予後不良とされています。

副反応

接種部位の局所反応として紅斑、はれ、しこりなどが認められますが、おおむね軽度で自然に回復します。全身的な副反応として、発熱、易刺激性なども認められます。

★重い副反応はなくても、機嫌が悪くなったり、はれが目立つときなどは医師にご相談ください。

6

対象年齢 生後 2 か月～5 歳の誕生日の前日まで

Hib ワクチン、小児用肺炎球菌ワクチンは、接種開始月齢によって接種回数が異なります。

Hib ワクチンの接種回数・間隔

接種開始月齢	初回接種	追加接種	計	接種券の使い方
生後 2 か月～7 か月の前日 (標準接種年齢)	27日(医師が必要と認めた場合は20日)～56日の間隔をあけて3回 【注意】2回目、3回目は1歳の誕生日以降は受けられません。追加は受けられます。	初回接種後7か月～13か月の間隔をあけて1回	4回	1回目→2回目→3回目→追加
生後 7 か月～12 か月の前日	27日(医師が必要と認めた場合は20日)～56日の間隔をあけて2回 【注意】2回目は1歳の誕生日以降は受けられません。追加は受けられます。		3回	1回目→2回目→追加
1歳の誕生日～5歳の誕生日の前日	1回		1回	1回のみ

小児用肺炎球菌ワクチンの接種回数・間隔

接種開始月齢	初回接種	追加接種	計	接種券の使い方
生後 2 か月～7 か月の前日 (標準接種年齢)	27日以上の間隔をあけて3回 【注意】2回目、3回目は、2歳の誕生日以降は受けられません。追加は受けられます。また、2回目が、1歳の誕生日以降になった場合は3回目は接種できません(追加は受けられます)	生後12か月の誕生日以降に初回接種後60日以上の間隔をあけて1回接種(標準接種期間: 生後12か月～15か月の前日)	4回	1回目→2回目→3回目→追加
生後 7 か月～12 か月の前日	27日以上の間隔をあけて2回 【注意】2回目は、2歳の誕生日以降は受けられません。追加は受けられます。	生後12か月の誕生日以降に初回終了後60日以上の間隔をあけて1回接種	3回	1回目→2回目→追加
1歳の誕生日～2歳の誕生日の前日	60日以上の間隔をあけて2回		2回	1回目→2回目
2歳の誕生日～5歳の誕生日の前日	1回		1回	1回のみ

7